

調査委員会における調査研究報告書

教科名（音楽【器楽合奏】）

調査研究の観点	所 見		
	発行者（教育出版） 発行者番号（17）	発行者（教育芸術社） 発行者番号（27）	発行者（ ） 発行者番号（ ）
1 内容	①和楽器の教材に現代のポピュラーソングがある。 ②打楽器を扱っていない。 ③和楽器（横笛）の手作り紹介がある。 ④リコーダーの奏法で、息を切らずにタンギングで演奏する奏法を、「テヌート奏法（演奏の状態を示す）」の表記で扱っている。 ⑤箏の奏法は3種類扱っている。 ⑥ギターの奏法で、アポヤンド奏法とアルアイレ奏法の説明に写真を扱っている。	①和楽器の教材にポピュラーソングがない。 ②打楽器を扱っている。 ③和楽器（横笛）の手作り紹介がない。 ④リコーダーの奏法で、息を切らずにタンギングで演奏する奏法を、「ポルタート奏法（演奏の仕方を示す）」の表記で扱っている。 ⑤箏の奏法は5種類扱っている。 ⑥ギターの奏法で、アポヤンド奏法とアルアイレ奏法の説明に絵を用いている。	/
2 構成・分量	①歌唱曲との関連が図られている。 ②日本の和楽器演奏に有効な縦譜を5曲扱っている。 ③独奏曲32曲、重奏30曲扱っている。 ④日本の曲は24曲扱っている。 ⑤外国の音楽の曲数は32曲で、資料数が少ない。 ⑥リコーダーで扱っている曲数は5曲、打楽器で扱っている曲数は3曲、和楽器で扱っている曲数は8曲である。 ⑦合奏曲の扱いは7曲である。	①歌唱曲との関連が少ない。 ②日本の和楽器演奏に有効な縦譜を3曲扱っている。 ③独奏曲26曲、重奏18曲扱っている。 ④日本の曲は11曲扱っている。 ⑤外国の音楽の曲数は39曲で、資料数が多い。 ⑥リコーダーで扱っている曲数は4曲、打楽器で扱っている曲数は13曲、和楽器で扱っている曲数は8曲である。 ⑦合奏曲の扱いは12曲である。	/
3 表記・表現	①掲載されている写真が大きく見やすい。 ②ほぼ全般にわたり、楽譜にコードネームが記載されている。	①掲載されている写真が小さく見づらい。 ②一部の楽譜にしかコードネームが記載されていない。	/
4 使用上の便宜	①巻末に収められている曲について、楽譜の難易度が高いためリコーダーの指操作が難しく、個に応じた指導に配慮が必要である。 ②見開きの折込みページがあり、扱いに配慮が必要である。	①巻末の名曲スケッチは、曲の紹介及び作曲者の肖像も掲載されており、既習内容の確認がしやすく、楽譜も指操作がしやすい難易度である。 ②見開きの折込みページがなく、シンプルで扱いやすい。	/